

平成 25 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は南河内地区唯一の総合学科定時制高校である。教育活動を実践する上で、地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な事情・目標を持って入学してくる生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を実践し、基礎・基本の学力を定着させ、自尊感情の高揚を図ることで、志と生活力のある社会人を育成する。

2 中期的目標

- 1 確かな学力の育成
- (1) 生徒の基礎学力を向上させる。
- ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、すべての教科・科目において、授業内容・方法等の改善を行う。
- イ 本校生徒の能力・適正に応じた授業方法の開発・実践を行う。
- (2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程を編成する。
- ア 生徒の実態に合った基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程を編成する。
- イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、本物に触れる教育を実施する。
- ウ 松原高校との連携講座を充実し、本校で開講していない授業を積極的に受講できるようにする。
- ※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を改善し、肯定的回答を 60%以上に引き上げる。
- 2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ
- (1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。
- ア 平成 22 年度に「スクールサポートプラン集中支援事業」で整備した農園を活用した「農園実習」を「志学」の実習として実施し、豊かな人間性、志や夢を育む。
- イ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。
- (2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。
- ア 入学時から教育活動全体を通じて進路指導を行い、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。
- イ 実践的な職業教育を通じて資質や能力を高めるとともに就職につながる資格取得を充実させる。
- (3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。
- ア 中高連携・人間関係づくり・基礎学力充実に重点をおいて取組みを行い、中途退学・不登校を減少させる。
- ※生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度（面倒見のよさ など）を引き上げ、肯定的回答を 70%以上にする。
- 3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり
- (1) 子どもたちの命を守る。
- ア 教員による教育相談体制を整備し、生徒が気楽に相談できる雰囲気作りに努める。
- イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。
- ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育を学校全体の教育活動全体を通じて取り組む。
- (2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。
- ア 長期欠席等の生徒の状況を詳細に家庭に連絡し、改善の協力を依頼する。
- イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深める。
- ウ 近隣幼稚園等の園児、地域の方を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を深める。
- エ セーフティネットとしての定時制の役割を果たす意味で、転編入生を積極的に受け入れ、卒業まで導くサポートを行う。
- また、高卒編入制度を活用して地域の方に利用して頂ける学校づくりを進める。
- ※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度（面倒見のよさ など）を 80%以上で維持する。
- 4 学校運営体制の確立と教職員の資質向上
- (1) 学校運営体制の確立を図る。
- ア 准校長のリーダーシップのもと P D C A サイクルによる学校経営を推進する。
- イ 教育活動その他の学校経営の状況の評価を行いその結果を公表する。
- (2) 教職員の資質向上を図る。
- ア 日常的な O J T の推進、校内研修の活性化を行う。
- イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の人材育成を行う。
- ※校内研修を年間 5 回以上実施し、人材の育成や情報の共有などを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 2 5 年 1 1 月実施分]	学校協議会からの意見
------------------------------------	------------

府立藤井寺工科高等学校

生徒・保護者・教員について、昨年度との変化をみるために、同じ質問項目で実施した。提出率は、生徒 61.2%、保護者 15.1%→44.0%、教員 100%であり、今年度は保護者のアンケートの回収率アップに取り組んだ。 生徒については、全 1 2 項目中、肯定的回答の割合が 10% 以上増えたものが、5 項目、5～10%増えたものは、5 項目と大幅な改善が見られた。 保護者についても、全 1 4 項目中、肯定的回答の割合が 10% 以上増えたものが、8 項目、5～10%増えたものは、2 項目と大幅な改善が見られた。 しかし教員については、全 53 項目中、昨年度肯定的回答の割合が 10% 以上増えたものが 38 項目あったが、今年度は肯定的回答の割合が 10% 以上減少したものが 41 項目、肯定的回答の割合が 5～10%増えたものは、1 項目のみであった。 【学習指導等】 生徒「わかりやすい授業が多い。」(55.8%→66.9%)、保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。」(55.3%→58.6%)、教員「教材の精選・工夫を行っている。」(90.7%→87.1%)「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている。」(87.5%→87.1%)であった。生徒に応じた工夫を教員が実践し、その効果が徐々に生徒や保護者の診断結果にも表れてきていると言える。 【生徒指導等】 ・生徒「学校に行くのが楽しい」(55.2%→61.2%)、「先生は生徒達のことを、よく見て対応してくれる。」(63.1%→75.9%)、「学校生活について、先生の指導には納得できる。」(63.1%→73.1%)、保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる。」(70.2%→85.1%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている。」(78.8%→78.1%) 教員「生徒指導において、家庭との連携ができている。」(84.4%→83.8%)、教員が生徒個々に丁寧に指導を行っていることが、生徒や保護者の理解と信頼を示す結果になっている。 ・生徒「人権の大切さについて学ぶ機会が多い。」(43.7%→56.2%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い。」(54.2%→63.5%)、保護者「学校は、生徒に生き方を考えさせ、豊かな心を持った生徒を育てようとしている。」(70.2%→85.1%)、「学校は子どもに生命を大切にすることや社会ルールを守る態度を育てようとしている」(63.8%→85.2%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている。」(72.4%→84.4%)など、教科以外の教育活動の内容についても好結果が得られている。 【学校運営】 ・教員「学校運営に、教職員の意見が反映されている。」(93.8%→71.0%)、「教職員が色々なことに意欲的に取り組める環境にある。」(87.5%→64.5%)など、学校組織に関する質問項目 16 項目のうち、13 項目で肯定的な意見の後退が見られた。学校組織や運営面で、見直しや改善が必要であるか検討が必要である。	第 1 回 (7/19) ○H25 年度学校経営計画全般について 「3 本年度の取組内容及び自己評価」で、特に新たに加わった事項について説明を行った。 ・高卒編入制度がどのような制度か？協議員から質問が出された。 ・地元地域との連携や交流をここまで積極的に行っている定時制高校は他に例がないとの評価を頂いた。継続していくことは、担当する人も変わるので難しいこともあるが、ぜひ続けてほしいとの意見を頂いた。 ・農園の活用やモジュール授業の実践が、生徒に浸透してきており、学校が落ち着いて来ていると全協議員から高い評価を頂いた。 ○今年度の取り組み紹介 ・農園を活用した取り組み、高卒編入生クラス、公開講座、外部講師の活用（特別非常勤講師、人気産業活用人材育成事業、JAM熟練技能継承事業など）、教育相談委員会の設置、中学校教員対象学校説明会などを藤工定の取り組みを紹介した。 ・外部講師の活用では、多くのところから工科高校の全日制に負けない多くの時間数を頂いて特別な授業を展開していることについて、驚きの意見を頂戴した。また、外からの講師を受け入れることに抵抗がある場合が多いが藤工定はそれがないことについても非常に良い状態であるとの意見を頂いた。 ・新たな取り組みの公開講座については、農園以外の新たな地域連携の形として評価を頂いた。 第 2 回 (12/26) ○学校教育自己診断（11 月実施）結果について ・生徒と保護者の結果について、肯定的回答の伸びが大きいことに高評価を頂いた。保護者の方のPTA活動や学校行事への参加状況にも話がおよび、PTA活動については、定時制高校の中で活発であると意見を頂いた。また、「全体的に評価が高く良い傾向になっている。学校の経営がうまくいっていると思う。」と評価頂いた。 ○授業アンケート結果について ・第 1 回目を 6 月、第 2 回目を 1 1 月に実施し、教科別平均および学校全体の平均が 1 回目から 2 回目で全結果が向上していることを報告した。 ・データの数値の出し方や平均の数値の変化がどのような意味をもつのか、座学と実技で分けては、学年別ではどうかなど、委員の方からわかりづらいとの感想やデータの出し方のについての意見や感想が出された。 ○今年度の取り組みの進捗状況報告 ・農園を活用した取り組みでは、生徒会のクラス委員やボランティア委員を中心に生徒が世話をする形で地域連携（保育園や幼稚園、子ども会、障がい者との交流）を行ったことを紹介した。定時制の生徒が、午後の早い時間に出てきて活動していることに、意識が高く素晴らしいことと意見を頂いた。 ・公開講座については、参加された地域の方の感想が委員の方から紹介された。大変喜ばれていたこと、次も参加したい、希望者が多く自治会で抽選を行っているなど、地域の方から支持されていることがわかった。 第 3 回 (2/19) ○H25 学校評価（案）について 評価案の説明を行い、次のようなご意見や提言を頂いた。 ・藤井寺工科定の教育活動が良いということが評価結果に表れている。 ・学校の先生の評価で、パーセントが減った項目があるようだが、それはさほど問題だと思わない。逆に地域連携の行事等を増やしてもらっているので、学校の先生の負担が増えているのではないのか心配している。 ・農園の作業を通じて、地域との交流がうまくいっている。さらに発展して相互交流など新しい形も模索できればと学校側が提案し、地域の方からも同意を頂いた。 ・モジュールなどの基礎学力向上の取組みについては、診断結果を報告、それについては、定時制生徒にとっても必要なことなので、ぜひ取組みを続けてほしいとの意見で一致した。 ・今年度導入した進学実現率、就職実現率について、実数がいくらかなどいくつか質問を頂いた。定時制生徒は、毎年生徒状況が大きく変わるので、進路に関する数値指標を設定する難しさがあることにご理解を頂いた。 ○H26 学校経営計画（案）について ・本校は、継続的に取り組んでいる内容が多いこと、その取り組み内容が藤工定の独自のものであること、内容が高評価を頂いていること、などから、大きく変更することが難しいことにご理解を頂いた。 ・数値目標を変えたところなどについては、了解を頂いた。 ・中期的目標の 1 確かな学力の育成の（2）として、特色ある教育課程を編成する項目を新設した。特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用することは数年前からすでに行っているが、目標設定を行い、重点を置いて取り組むことを報告した。 ・「今やっていることで効果が出ているので、文句の付けようもなく大変良い。」との有難いご意見も頂いた。 ○近況報告および今後の取組みについて ・来年度に行うキャリア支援講座の募集と導入される高校生活支援カードの内容について説明を行った。 ○本校教育に期待すること
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1) 基礎学力の向上	(1) ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、すべての教科・科目において、PDCAサイクルに基づいた授業内容・方法の改善を進める。 イ 授業改善の一環として学び直しを目的とした、反復練習を主としたモジュール授業（理数、国、英）を1年生を中心に継続する。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における授業満足度を60%に回復する。 イ 最初の診断テスト結果より10%成績アップ モジュール授業の実践を拡大する。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の授業満足度は66.9%となり、目標を達成した。(◎) イ モジュール授業については、1年生を中心に理数、国語、英語の各教科で継続して取り組みを行った。診断テストの結果は、50問中の平均正答率が38%から58%へ上昇、52%の伸びを示した。モジュール教材の見直しも毎年行っており、成果が上がり、生徒からの評判も良い。(○)
2 子どもたちの規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養 (2) キャリア教育の充実・資格取得の促進 (3) 中途退学の減少	(1) ア 「農園プロジェクトチーム」を中心に、平成22年度「スクールカーサートプラン集中支援事業」で整備できた農園を使用した「農園実習」を「志学」の実習として実施し、豊かな人間性、志や夢を育む。 イ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。 (2) ウ 就職につながる資格取得の促進を通じてキャリア教育の充実を図る。 自動車整備士、危険物取扱者、CAD利用技術検定、基礎製図検定、小型フォークリフト、アーク溶接、ガス溶接、調理技術検定、パソコン検定、漢字能力検定など 生徒の進路が実現できるように支援内容を充実する。また、就職支援コーディネータを活用する。 (3) エ 中高連携・人間関係づくり・基礎学力充実に重点をおき、家庭はもちろん生徒の雇用主とも連携を深め、授業への出席率を向上させることで中途退学の減少に取り組む。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度を70%以上にする。 生徒が農園で収穫する機会を年間3回以上にする。 イ「クリーンキャンペーン」を年間3回以上実施 (2) ウ 資格取得数5%増加 卒業生徒の進路実現満足度を調査し、進路実現率のアップをはかる。 (3) エ 中途退学率5%減少	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断の学校に対する満足度は、それに関する3項目の平均が70.1%となり、目標を達成した。 生徒が農園で収穫する機会は、5回設けることができた。(◎) イ「クリーンキャンペーン」は、年間4回実施し、生徒のボランティア意識を高めることができた。 (1)の豊かな人間性を涵養する取組みは、生徒の規範意識の向上につながり、懲戒件数の減少(過去3年間平均27件→今年度7件)に表れている。(◎) (2) ウ 資格取得数は、耐震工事のため、資格試験ができなかった分を除けば、昨年度並みの予想である。卒業生徒の進路実現率は、進学(希望者5名中合格者4名)実現率80%、就職(学校斡旋希望者15名中内定者10名)実現率67%であった。(○) (3) エ 中途退学者は、昨年度55人、今年度は、5人(1月末現在)である。年度末に退学者が出るが、それを勘案しても目標は達成できる予定である。(◎)

府立藤井寺工科高等学校

3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	(1) 子どもたちの命を守る (2) 学校・家庭・地域の連携	(1) ア 多様な生徒の相談に対応するため、教育相談体制の充実を図り、ケース会議を立ち上げ設置する。 イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。 (2) ウ 薬物乱用防止教育の充実を図る。 エ 学年通信等を発行する等家庭への連絡を頻繁にし、家庭との連携を深める。 オ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深める。 カ 近隣の幼稚園等の園児、地域の人々を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続する。 キ 転編入生の積極的な受け入れを行うとともに、公開講座の受け入れも広報を積極的に行い、拡大する。	(1) ア 相談生徒に対するケース会議を年間5回以上実施する。 イ 交通安全教室を年間2回開催 (2) ウ 薬物乱用防止教室を年間2回開催する。 エ 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度80%以上にする。 オ 生徒出身中学校全校訪問（府内約75校） カ 年間に8団体程度を農園に招待 キ 公開講座を年間5回程度実施する。	(1) ア 教育相談委員会を設置し、今年度から配置のスクールカウンセラーと連携を取り、教育相談を充実させた。延べの相談件数は、20件、ケース会議は4回、保護者向け講演会を1回実施した。(◎) イ 交通安全教室は、2回実施した。(○) (2) ウ 薬物乱用防止教室は、3回実施した。(◎) エ 保護者向け学校教育自己診断で、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている。」(78.1%)であった。(△) オ 在校生徒の出身中学校49校を全校訪問し、在籍実績のある中学校も含めて70校の訪問を行い、情報交換と学校のPRを行った。(○) カ 農園を活用しての地域連携は、延べ11団体(625名)を招待し、地域の方との連携を深めることができた。また、障がいをもった方との交流会も新たに行った。(◎) キ 今年度は、転編入生を45人受け入れた。公開講座を7回実施、地域の方から好評を頂いた。(◎)
------------------------------	--	--	---	---